

素敵な人生 パートナー



市男女共同参画
推進懇話会委員
米田 稔

本年度から男女共同参画推進懇話会委員の一員として参加しています。右も左もわからない若輩者ですが、精一杯務めたいと思いますのでよろしく願います。

私の人生で一番の出来事は、素敵なパートナーに巡り合えたことです。妻とは19歳のときに専門学校で出会い、25歳で結婚、7年ほど前に合志市に引っ越してきました。今では2人の子どもを育てながら生活をしています。互いに実家は離れており、2人とも仕事をしているため家庭の事は分担して行なっています。私は掃除が大の苦手であるため、家の掃除は妻に頼り、その分、料理や育児をしています。苦手な部分はカバーし合えるいい夫婦だと自負しています。

しかし、そんな私も妻にはいつい甘えがちになります。夫婦は以心伝心していると錯覚することもあり、言わなくてもお互いを理解できている感じがちです。実際に私もそう思っていました。お互いにさまざまなことを語り合っている家庭の方が円満な場合が多いそうです。私の周りも、そういう家庭の方が円満に暮らしているように思います。

相手の立場に立つ、相手を思いやるという事はどんな時でも必要だと思っています。「偏見の目ではなく、寄り添う気持ち」を持つことは、素敵な人生を送り、さらには性別、文化などを越える。それが男女共同参画への第一歩ではないかと思っています。

こんにちは

こちら

消費生活センターです



CO2排出権取引の契約

相談事例

一人住まいの80歳の母に、「地球温暖化防止のためCO2の排出量削減が求められており、今後CO2の排出権が高値で取引される。絶対にもうかるので少し投資をしてみませんか」と業者から電話がかかってきた。後日、業者が突然訪問してきた。母は取引の仕組みなどはあまり理解できなかったが、環境保全に貢献できればと思い、100万円を振り込んでしまった。先日、業者から取引報告書が届き、元本割れしていることがわかった。母は元本割れするリスクについて聞いていないと言っている。解約させたい。

(相談者 40歳代 女性)

解説

これは、業者が顧客から証拠金を預かり証拠金の千倍もの金額でCO2排出権の取引を仲介する契約で、実際に仲介された取引が行なわれたかどうか

消費者側が確認するすべはありません。CO2排出権の価格と為替レートの変動が損益に関わるため、仕組みが複雑でリスクの高い、素人には難しい取引ともいえます。

対策

この事例は振り込みから8日間以内であったため、クーリング・オフの申し出をすることで全額返金となりました。クーリング・オフができない場合でも、書面不備や絶対にもうかるという言葉理解できないまま契約させられたなどの問題点があることも考えられるため、まずは消費生活センターにご相談ください。

問い合わせ先

市消費生活センター
(合志庁舎2階 総務課内)
☎(248)5442

相談受付時間

平日 午前10時～午後4時



人権教育シリーズ ②4

市では人権教育の推進のため、さまざまな活動や啓発に取り組んでいます。ここでは、取り組みの内容や情報を定期的にお知らせしていきます。

西合志第一小学校の取り組み

「夢や希望を持ち、自ら学び心豊かに生きる児童の育成」

西合志第一小学校は、学級数7、児童数69人で、その校区は本市の北西部に位置し、菊池市と隣接しています。学校周辺から校区北部にかけては、田畑や雑木林が点在するのどかな田園地帯となっており、子どもたちは豊かな自然環境の中、学年の垣根を超えて互いに仲良く学び合っています。

わくわく木曜会で仲間づくり

本校では、地域活動の拠点である合生文化会館と協力してわくわく木曜会を行なっています。参加は自由で、現在は全校児童のうち約半数が参加しています。

次の5つの方針のもと、地域の人たちとの交流やさまざまな体験活動を通して、子どもたちが人権意識を高め、一人ひとりを大切にする力を身につけることを目指しています。学年を超え



歌やゲームを通して楽しく人権学習

て教え合う学習や、頭と体を使って楽しむゲーム、地域の人から教わる昔遊びや本の読み聞かせなど、交流を通して地域のひととの絆を深めています。

- ①児童が主体となり、児童同士がつながっていくような活動を行なう
- ②基礎的な学習の時間を設け、一人ひとりの学力の保障に努める
- ③ものごとを正しく知ることや、人の思いを考え合うことを通して、人となりがりあえる児童を育てる
- ④地域を知り、児童が自分のふるさとを愛する心情を持つよう、地域の人材との交流を図る
- ⑤合生文化会館が地域活動の拠点となるよう、自然に児童が集まれるような場の確保を行なう

雨ごいおどりは支え合いの証し

昨年12月、本校の子どもたちは、市人権フェスティバルで地域に伝わる雨ごいおどりを発表しました。

これは、20年ほど前から運動会の全校ダンスで子どもたちが毎年披露しているものです。水不足の際、雨が降ることを願って昭和初期までこの地域で行なわれていました。

発表にあたり、雨ごいおどりについて学習していく中で、子どもたちは、地域の人々が生活のために助け合い、支え合いながら生きぬいてきたことを学びました。



子どもたちの雨ごいおどり



学んだことを紙芝居と共に発表

子どもたちはこの取り組みから、お互いに支え合い人権を大切にすること、厳しい環境を生きぬく力が生まれること、仲間づくりや地域の絆、文化を受け継いでいくことの大切さに気づき、発表につながりました。

取り組んだ子どもたちの感想

- ・昔は雨が降らずとても困り、水が欲しいから村どうしでけんかをするところもあったそうです。でもこの村では、みんなで協力していたことがすごいと思いました。
- ・水が人々の命をつなぐものだと思いました。力を合わせることは大事だと思いました。
- ・先輩たちが復活させてくれた「雨ごいおどり」をもっとみんなに知ってもらい、これからはしっかり踊り続けていきたいです。

今後も学校、保護者、合生文化会館が協力して、ふるさとを愛し、誇りに思い、地域の行事や伝統を受け継いでいけるよう子どもたちへの働き掛けを続けます。また、その活動を通して、子どもたちが自分と同じように友だちも大切にし、支え合い、思いやりの心、かけがえのない命を大切できるような人権教育を推進していきます。